

研 究 分 野	増養殖技術	部名	磯根資源部
研 究 課 題 名	海の恵みを育む増殖場再生事業増殖場調査		
予 算 区 分	県単		
調査研究実施年度・研究期間	H. 18～H. 19		
担 当	高橋 進吾・桐原 慎二		
協 力 ・ 分 担 関 係	漁港漁場整備課、大間漁協、階上漁協		

＜目的＞

磯根資源を対象にした既設増殖場の適正管理・利活用の向上や機能性・生産力の向上を図るため、漁協、漁業者向けの増殖場活用と管理手法などを示した手引書を作成し、漁業者の増殖場利活用促進活動を支援する。これに係る既設増殖場の現状を把握するための現地調査を行う。

＜試験研究方法＞

コンブ増殖場の機能回復の検討

投石や増殖ブロックによって造成されたコンブ増殖場のなかには、ツルアラメに覆われたためマコンブが生育せず、本来の機能が著しく低下した工区がある。

ツルアラメ群落の除去によるマコンブ漁場の回復を検討するため、平成18年11月、大間町割石地先の大間地区大規模増殖場（水深12m）に、大間港内から採取したキタムラサキウニ1,500個を移植放流し、平成19年2月にキタムラサキウニを潜水採捕した。平成19年6月、キタムラサキウニに摂食され裸地面となった場所に生育する海藻類の状況を観察した。

＜結果の概要・要約＞

コンブ増殖場の機能回復の検討

ツルアラメが生育海藻全体の77%（現存量1,665g/m²）を占めたキタムラサキウニの移植放流場所において、約3ヶ月後にはキタムラサキウニによりツルアラメ群落が摂食されたため136m²の裸地面が形成された。また、2月にはウニの身入りが放流時に比べ4%増加し10%となったため、ツルアラメ場においても身入りが向上することが確かめられた。

キタムラサキウニを潜水採捕してから約4ヶ月後にキタムラサキウニにより摂食された範囲（摂食面積136m²）に生育する海藻類の状況を観察したところ、摂食面積の66%にあたる89m²に海藻類が生育した。

生育海藻の面積は、ツルアラメが75m²（生育海藻全体の84.2%）と最も多く、次いでマコンブ6.6m²（同7.4%）、スジメ6.0m²（同6.7%）、フクロノリ1.0m²（1.1%）、ワカメ0.5m²（同0.6%）であった。生育海藻の葉長は、スジメ100cm前後、マコンブ50～80cm、ツルアラメ10～30cm、ワカメ10cm前後であった。

これらから、ツルアラメが繁茂する漁場にキタムラサキウニを移植放流し摂食させることによって、ある程度マコンブ漁場として回復させることができると考えられた。

〈主要成果の具体的なデータ〉

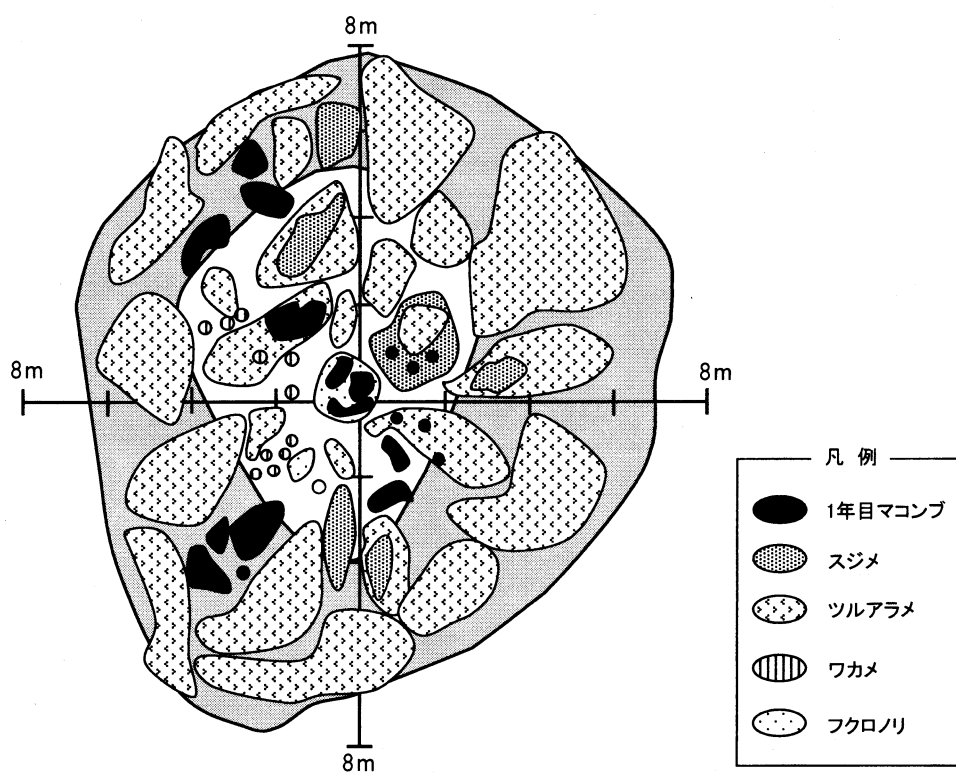


図 キタムラサキウニによるツルアラメ群落摂食後に生育した海藻類の生育範囲

〈結果の発表・活用状況等〉

平成 19 年度第 1 回海の恵みを育む増殖場再生検討委員会

平成 19 年度第 2 回海の恵みを育む増殖場再生検討委員会